

ほら、きみのそばにも



作・絵 中川たくや

おいしいコーヒーは話に花をさかせる。
つまり、たのしくなるのだけれど…
どうしてかな。

そして、ある日 ぼくは みつけたのさ。





コーヒーのようせいたちがたのしくなる花のたねをまいていたんだ。
なるほど、ぼくらのそばにはほかにもたくさんようせいがいるらしい。

朝おきて、お日さまの ひかりを あびてごらん。



ようせいたちがぼくらに、げんきの シャワーをふりかけてくれる。

げんきよく おそと にでかけたら、草や木や花をみてごらん。



そこにいるようせいたちが色んなことをおしえてくれるのさ。

ぼくらのことばからも、ようせいはあらわれる。



たのしくさせる ようせい。

うれしくさせる ようせい。



やるきをださせる ようせい。



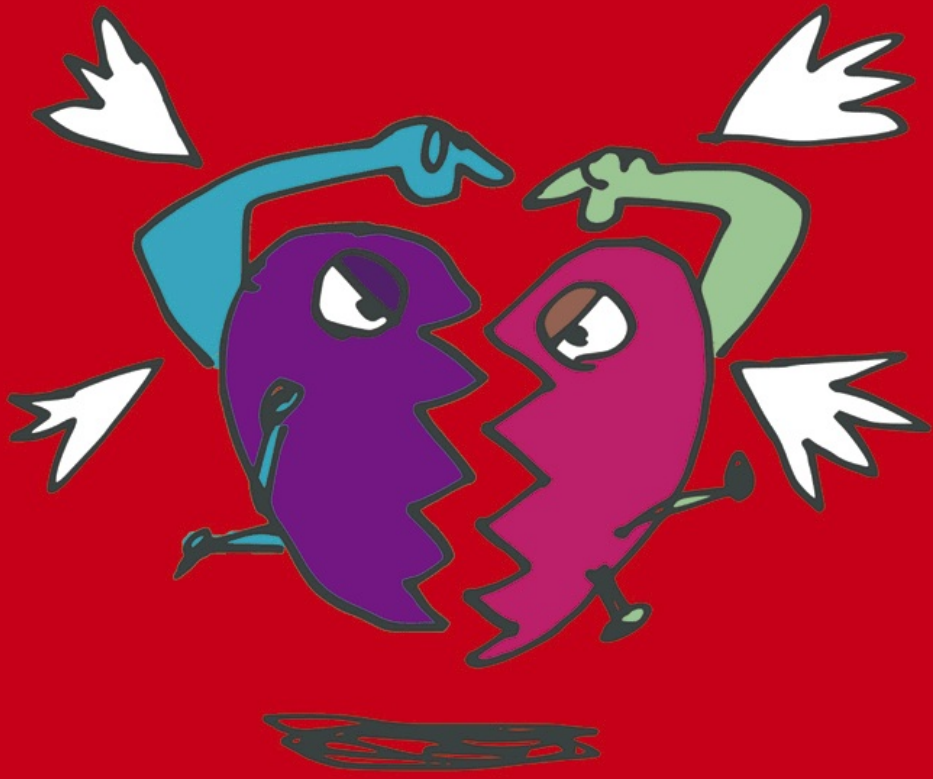
うっとりさせちゃう ようせい もいる。



これはなんだか わからないけど すごそうだ。



でも、気をつけなくちゃ。



かなしくさせる ようせいだっているのさ。

本をよんだなら、ものしりのようせいがあらわれる。
味つけに こだわりたくさせる ようせいが、おかあさんのところにいるね。



おとうさんのゴルフクラブには しばを よみたくさせる ようせいが いるみたい。



鏡にウインクする おねえちゃん。
女をみたく ひけつ だってさ。

そろそろ おなかが すいたね。

しっかり ごはんを食べよう。ようせいが きっとぼくらを じょうぶにしてくれる。



今日もおつかれさま。おへやから お月さまをみていたら ねむくなってきたね。



おやすみのようせいのしわざかな。

ほら、きみのそばにも
ようせいたちがきっと。





fin